

2023年3月27日

2022年度 第1回理容科教育課程編成委員会議事録

1. 開会日時 2023年3月27日(月) 10:00-11:30
2. 開催場所 埼玉県理容美容専門学校 浦和校舎 2階 ホール
3. 出席者 7名

	氏名	所属
1	石井 孝之	埼玉県理容生活衛生同業組合 常任理事
2	福島 正尚	埼玉県理容生活衛生同業組合 本部講師会 幹事長
3	若月 良仁	埼玉県理容生活衛生同業組合 本部講師会 幹事
4	吉野 昇邦	埼玉県理容生活衛生同業組合 常任理事
5	増村 信雄	埼玉県理容美容専門学校 校長
6	千住 義祐	埼玉県理容美容専門学校 教務課長
7	松本 朋子	埼玉県理容美容専門学校 理容科主任

4. 学校長 開会挨拶 (増村校長)
5. 2022年度第1回・教育課程編成委員会の目的 (司会・千住課長)

本校における授業内容および学生指導が将来の職業実践に寄与しているか、について前回2021年度に意見・提案のあった点を、2022年度は修正あるいは取り入れて実施できていたかに関する報告

(1)2021年度 教育課程編成委員会 議事報告(松本主任) 2021年度の意見に対してそれぞれ実施内容を説明する。

意見① / 卒業生講話の実施により、職業観の育成とサロン現場の知識を在學生に伝えることを強化すべき。

実施① / 63期卒業の井草君を卒業生講話に招聘し、自身のステップアップを在學生に伝えてもらった。県内のサロンで5年間の経験を経たのち、自身のサロンを開くにあたり都内へ進出、トレンド・サロンでキャリアを磨いているという実例である。

意見② / サロンワークのシャンプー技術の正確さ、丁寧さを習得するマニピュレーションの徹底を図って欲しい。

実施② / スタンドシャンプー、リアシャンプー、サイド・シャンプーなど新校舎の設備ではあらゆるシャンプー実習が可能になったので、前年に比較するとしつかり実施できた。また、外来講師を招聘して技術の正確さ、丁寧さを学ぶ機会を設けた。

意見③ / 理容業は接客業であるので、お客様とのコミュニケーションとして笑顔で挨拶、素直に話を聞くことへの意識づけを学校生活の中で日ごろから意識づけして欲しい。

実施③ / 学生は自分の気分によって笑顔や挨拶ができたりできなかつたりしている。接客をふまえて自分の気分でなく実施するように職業人としての指導をしてはいるが、十分に指導の結果は出ていないのが現状である。

意見④ / 基本的な生活習慣の中で、日常生活からの社会人としての行動や規範を意識して取り組む姿勢が望ましい。

実施④ / 授業中に座っていること、話を聞くことすらままならない学生もいる。本来家庭で指導していく基本的な生活習慣を、専門学校の2年間で身に付けさせていくのは非常に難しい。

(2)2022年度 授業報告

これらの改善に資するため、2023年度はコロナ禍の影響に十分配慮しつつ2022年度は以下の活動を実施した。

- 1 ミルボンのヘアー・ショー見学。イベントに参加するための身だしなみや見学マナー、実際に会場で高い技術を見するという経験をする。
- 2 12月20日・川口リリアで開催された「埼玉県美容技術協会」主催のフラメンコ、オペラなど文化的なステージ体験を通して、自身の興味分野以外に芸術に触れる機会を設けた。
- 3 3月に70期生(1年生)が春日部支援学校へのボランティアを実施。社会人としての身だしなみ指導(ヘアセット、洗顔、ネクタイの結び方など、メイク、スキンケア)を行った。本校参加者は、男子学生14名、女子4名であった。学生が社会福祉で学ぶ以上に、現場で動いていた。思いやり、人を助けて役に立ちたい気持ちなどが培われた。
- 4 69期2年生のヘアー・ショーは、理容科20人という規模の中で2年間のチームワークがよく活かされて優れた作品を披露できた。

(司会・千住) 以上が2021年度の見解・提案を活かした2022年度の取り組み報告となる。その他、2022年度の理容科実績報告は

進級 1年次退学は2名

内訳として、入学後3日で理容店の指定である学生が、家業を継がないことを理由に自主退学が1名。また9月末に学費未納と無断欠席及び連絡先不明により除籍処分1名。

卒業 20名(在学全員)

就職 2名未定 中国籍であって母国に戻る者1名、志望店舗への再チャレンジにより今年度就職見送りが1名

国家試験 3月31日に国家試験結果が発表される。本校では学力の低下を痛感した。結果として1名が学科の科目0点(化粧品)での不合格を予想している。

その他行事

この年度の感謝祭は、模擬サロンを中心とするスタイルに回帰した。そのためサロンワークを強化し、9月後半からシャンプー実習などに取り組んだ。

司会 2022年度報告について意見を求める。

実施①について

若月 井草さんは埼玉支部の関根氏のサロンで働いていたようだが、現在勤務している「ダムディ」など流行りのアメリカンなサロンでの技術レベルはどうなのか、内容が不明である分卒業生講話での影響に懸念を感じる。

石井 今時、つまりトレンド・サロンから、理容店としての新しいスタイルとしての特性は学べるのではないか。しかし、偏りを避けるためタイプの違うサロンの経験であれば、複数の卒業生を呼んでバリエーションのある講話が聴けると良い。女性理容師の話も聞かせたい。

松本 正統派として組合店、特に人生の先輩として多彩な経験のある講師の参加を復活させたい。以前は理事長講演も実施していた。

実施②について

石井 シャンプー技術はサロンワークの大切な要素で、実際我々現場でも、タカラベルモントの新技术を学ぼうと計画している。

新校舎に導入された夢シャンの機材ならばヘッドスパを積極的に学べるが、一般的な理容の個人サロンではまだ普通のスタンド・シャンプーしか機材がない。その実際の元気場でも応用が利く技術を学んでほしい。但し、サロンごとに考え方も違うので、多様な機材で経験をすることは良い事だと思う。

松本 ヘッドスパをリア・シャンプー、夢シャンで実施することは教えられるが、スタンド・シャンプーの機材で、ヘッドスパはできるものなのか?

石井 マッサージで指圧やもみほぐしなど、スタンドでも工夫次第で、ヘッドスパのようなサービスは出来る。ツボ押しやマッサージのテクニックであれば可能。北浦和・旧校舎の実習室でスタンドのスタイルでヘッドマッサージ講習をしたが、問題は感じなかった。

松本 今現在、理容サロンでのマッサージはどのような位置づけなのか。

石井 ヘッド・マッサージにツボ押しやスチームをプラスした、エステやスパ的なメニューとして、サロンの付加価値として行っている。

実施③及び④について

石井 挨拶・返事などのマナーが学生の気分で変わってしまう点は、社会に出てからは修正が厳しいので、学生のうちから身に付け、育てるべきだが、なかなか難しいのではないかな。

松本 家庭生活で十分対応できていない分、学校生活にメンタルの問題が持ち込まれていると感じる。

吉野 家庭生活での不満や悩みが学校生活に反映しているし、学生にとってはぶつける先がないのではないかな。

福島 家庭での躰など抑圧があって、また学校で規則や縛られることがあると鬱積しがちなのではないかな。

吉野 中学、高校で教師が指導しづらくなった分、指導や躰ができていない状態で専門学校に来れば、学生も違和感がある。急には指導に従うことが難しい。

石井 小学生時代から、親が先回りして面倒をみてしまうため、本人に問題解決能力がないと感じる。

吉野 高校生でも車で送迎していたりする。甘やかされている。

松本 確かに、授業中は席に座る、話を聞くときは静かにするから指導しなければならない。やっといういいことと悪い事の区別が理解できていない。

司会 2022年度報告について、有用な意見が得られたので第1回目は問題提起としてここで終了し、次回は問題点の解決のために更なる意見を求めたい。

校長 挨拶(会議時間終了)